

トマト一段密植栽培による高温期の高品質果実安定生産技術の確立

1 中核機関・研究総括者

(独)農業技術研究機構野菜茶業研究所
渡辺 慎一

2 研究期間

2003～2005年度(3年間)

3 研究目的

保水シート耕方式のトマト一段密植養液栽培は、軽労的で果実の高品質化が容易な革新的な栽培法であり、外国産トマトに対抗できるような高品質果実の周年安定生産技術として期待されるが、高温期の高品質果実の生産が不安定であるという課題が残されている。このため、高温期の高品質果実生産に適した品種の選定や栽培技術の検討を行い、高温期の安定生産技術を確立する。

4 研究内容及び実施体制

高温期の高品質果実生産に適した品種の選定((独)農業技術研究機構野菜茶業研究所)

単為結果性や耐暑性等を有する品種から適性品種の選定を行う。

高温期の高品質果実の生産性向上技術の確立(神奈川県農業総合研究所、(独)農業技術研究機構野菜茶業研究所)

植物体への高温耐性付与技術の開発、培養液の管理技術および栽植法の確立を行う。

高温期の高品質トマトの安定生産技術の実証(農業者・曾川政司、農業者・新門剛)

、得られた成果について、経営レベルでの実証を行う。

5 目標とする成果

高温期(8-10月)に1果100-120g、糖度7以上、1作当たり4t/10a以上の収量を達成するトマトの養液栽培技術を確立し、農業者の経営で実証する。

これにより、それ以外の時期で目標とする1果120-150g、糖度8以上の果実と合わせて年間収量15t/10a以上の一段密植栽培による高品質果実の周年安定生産技術の確立が見込まれ、消費者の要望に応え、外国産トマトに対抗しうるトマト生産技術としての普及が期待される。